

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院の課程）

国際バカロレア教員養成特別プログラム

International Baccalaureate Teacher Training Program

IBは国際的な教育プログラム

国際バカロレア(International Baccalaureate、以下、IB)は、世界160の国・地域、約6,000校(2025年12月時点)で実施されている、IB機構(本部、ジュネーブ)が提供する教育プログラムです。1968年、高度でバランスがとれた教育を提供し、大学入学資格として国際的に認められることで、世界のような場所や文化圏においても継続して受講可能な教育として考案されました。

IB教育は、児童生徒が自身のまわりの世界のもつ複雑性を理解し、未来に対して責任ある行動をとるために必要なスキルと態度を身に付けられるような教育を提供することを目的としています(国際バカロレア機構『国際バカロレア(IB)の教育とは?』2019)。



国内でも評価されるIB

「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」(平成25年6月閣議決定)をはじめ、IB導入促進に向けて様々な取り組みが行われています。日本でIB教育を行っている認定校等数は260校、学校教育法第1条に規定されている学校92校(2025年12月31日時点、文部科学省IB教育推進コンソーシアムより)に及び、グローバル人材育成、初等中等教育の質の向上、国際的通用性の観点から、その成果は高く評価されています。今後も国内のIB認定校の数は増加していくことが予想されます。

東京学芸大学の強み

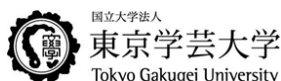
IBの授業を実践できる十分な資質を備えた教員の不足が課題となっています。こうした状況を踏まえ、本学はIB教員養成に取り組むことになりました。2017年10月に実施されたIB機構の訪問審査においては、国の教員養成に関する基幹大学であること、IB教員養成に必要な実践校を附属学校として持っていること、教職大学院での授業内容がIBが示すIB教員養成課題と大いに関連していること等が高く評価され、2018年4月にIB Educator Certificates (IBEC)の高等教育機関として認定を受けました。

教職大学院として国内で最初のIB教員養成のプログラムを開設し、2019年4月より、中等教育プログラム(Middle Years Programme: MYP)とディプロマ・プログラム(Diploma Programme: DP)の2つのコースをもつ、国際バカロレア教員養成特別プログラム(IB Teacher Training Program: IB TTP)をスタートしました。本プログラムでは、IB教員としての認定を目指し、教職大学院と研修校との連携による理論と実践の往還により、IB教育実践の指導力と教員としての資質・能力を高めることを目的としています。2024年4月IB機構によるRenewal Visitを経て、さらなる改善と開発に取り組んでいます。

これまでに約230名の修了生がIB教員としての認定を取得しました。IB教育は学習指導要領との親和性が高いと言われています。ここで獲得した学びを、IB校以外の学校でも生かしているという声が寄せられています。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学大学院教育学研究科(教職大学院)教育実践専門職高度化専攻

TEL:042-329-7707 E-mail: kyoushi@u-gakugei.ac.jp



国立大学法人
東京学芸大学
Tokyo Gakugei University

担当: 有馬実世(教育実践創成講座) 藤野智子(教育実践創成講座)

星野あゆみ(玉川大学大学院教授・IB機構 アジア太平洋地域 日本担当ビジネス開発マネージャー)

日本で唯一、教職大学院に開設されたプログラムです

本学の教職大学院は、国内最大規模の総合型教職大学院（定員 210 名、5 つのプログラムで構成される）です。本学の国際バカロレア教員養成特別プログラムは、国内ではじめて教職大学院に開設されたものです。本プログラムの科目群は、教職大学院の高度選択科目として開設されています。これらの科目の修得・IB 校等における研修・大学院の修了によってプログラム修了が認定されます。これらの科目群は、教職大学院を構成するどのプログラムからも選択可能な仕組みになっています。

また、教職大学院は、高度専門職業人としてスクーラーリーダーを養成することを使命としております。本学教職大学院で行われる理論と実践の往還を図る様々な授業は、国際バカロレア教員養成に有益であるだけでなく、プロフェッショナルとしての教員の資質向上にも大きな力となるものです。



国際バカロレアの全ての授業を担当できる IB 教員認定証 IB certificate in teaching and learning (IBCTL) を取得できます (※)

国際バカロレア教育では、すべての教科に加え、教科外の科目が設置されており、それぞれを担当する教員はその担当ごとの認定が必要となります。しかし、国際バカロレア機構から認定された本学の特別プログラムを修了した教員は、基本的に、すべての授業が担当可能 (※DP/MYP別) であると認定されます。

IB 関連科目		単位	学期	定員	
共通科目	「IB 教育入門」	2	春	なし	
IB 教員認定科目	DP	「IBDP 教育概論」	2	秋	人数制限あり
		「日本の DP 教育実践」	2	秋	
	MYP	「IBMYP 教育概論」	2	秋	
		「日本の MYP 教育実践」	2	秋	

DP: Diploma Programme (ディプロマプログラム) : 16~19歳対象

MYP: Middle Years Programme (中等教育プログラム) : 11~16歳対象



Q DP/MYP 両方の IB教員認定証を得ることができますか

A まず、IB教員認定科目履修には共通科目の成績等で一定の基準に達していることが必要です。DP/MYPの認定に必要な科目（単位数）は3科目（6単位）ですが、共通科目（2単位）を共有していますので、MYPとDPの両方を取得するためには5科目（10単位）を修得することで申請することができます。ただし、IB校等における研修も重ねて求められますので、基本的には、どちらかに絞ることをおすすめします。なお、MYPとDPの一方の資格を取得した場合でも、IBO主催のワークショップに参加することで、資格を補うことができます。

IB 教育実践教員からサポートを受けることができます

本プログラムでは、大学と DP・MYP 認定校である附属国際中等教育学校や国際バカロレア認定校の実践教員とをつなぐことで、大学での学びと実践との往還を行います。その中で、省察を通じて浮かび上がった問題等の解決に向けて、国際バカロレア教育の実践経験のある教員がサポートしますので、安心して学ぶことができます。教科に即した実践的な指導と学習について学びを深め、教師としてどうありたいかを探ります。



引用：文部科学省 国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～Vol.2」（令和元年5月29日）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2019/05/29/1416730_01.pdf (2025年3月14日最終閲覧)

多様な教職経験、異学校種、さまざまな教科の専門性をもった人々の集まる IB コミュニティにおいて学びます

現職教員と学卒院生が協働的に探究的に学び合います。これまでも、各自治体の教育委員会より IB 教員養成を目的に派遣された現職教員や、非常勤講師等として IB 教育にかかわる受講生が複数在籍しています。また、IB 教員認定後に IB 校に専任教員として採用されたり、各自治体で指導主事を務めたりなど、キャリアも多様です。IB TTP から、各地の IB 校と人的ネットワークを広げることが可能です。本学と IB 教員養成研修に関する協定を締結している連携協力校は、東京学芸大学附属国際中等教育学校、東京学芸大学附属大泉小学校、さいたま市立大宮国際中等教育学校、高知県立高知国際中学校・高等学校です（2026年3月末現在）。宮城県仙台二華高等学校、広島県立叡智学園中学校・高等学校からも支援を受けています。

Q IB 校等における研修はどのように行われるのでしょうか

A 研修は、大きく2つに分かれます。一つは、IB 認定校である附属国際中等教育学校 (TGUISS) を訪問することによって、生徒観察や授業観察を行い、個別、グループ活動を通じて省察等を深めます。TGUISSの担当指導教員の支援や助言を受けて、授業観察やディスカッションなどを行うものです。18時間程度を目安とし、秋学期に行います。もう一つは、他の IB 関係の学校、教育機関の訪問や、シンポジウム、カンファレンス、研究発表会等に参加することを通して、IB に関する理解を深めるものです。12 時間以上、年間を通して行います。トータル30時間以上の研修を通して、各自の課題を探究することが期待されます。